

# 野鳥観察に魅せられて -1

## 五十嵐 召三

機設部OB会の会員の中には色々と多彩なご趣味をお持ちの方がおられます。今回は五十嵐召三さんです。若い頃には山男として知られ、多くの山を登られました。現在はその名残でしょうか、野山を駆け巡り 少なくなった野鳥を追い求めて日本列島を北から南まで出掛けて野鳥観察をされております。野鳥観察の醍醐味、それにかかる思いなどを数回に亘って寄稿して戴きます。

## 野鳥観察の始まり

野鳥観察の始まりは、御多分に漏れず「カワセミ」との出会いでした、最近では個体の数も増えて、近所の小川でも見ることができますが、以前は「溪流の宝石」と云われ山間の小川や湖沼で目にする程度でした。多くのカメラマンがああ「エメラルドブルー」の姿の美しさに魅せられ、小川や湖沼に出かけるようです。私もその一人ですが。「カワセミ」に始まり「カワセミ」で終わると云われますが、これからいろいろな野鳥との出会いを写真をまじえながら紹介させて戴きます。

### 1. カワセミ

初めに「カワセミ」を紹介致します。  
カワセミの撮影は気長に待つことでシャッターチャンスに恵まれることがあります。今回、紹介する写真は「カワセミ」の捕食から交尾までの瞬間をとらえたものです。



魚を見つけて飛び込みの瞬間

「捕食」 捕食の写真で一番難しいのは飛び込みの瞬間です、偶然にも撮影出来ました。(「カワセミ」の餌は生きた小魚が主体のようです。高い木の枝から川面を見て一瞬の早業で魚を捕える。その瞬間は得難いものです。)





魚を捕獲し川面から飛び上がる状態-1



魚を捕獲し川面から飛び上がる状態-2

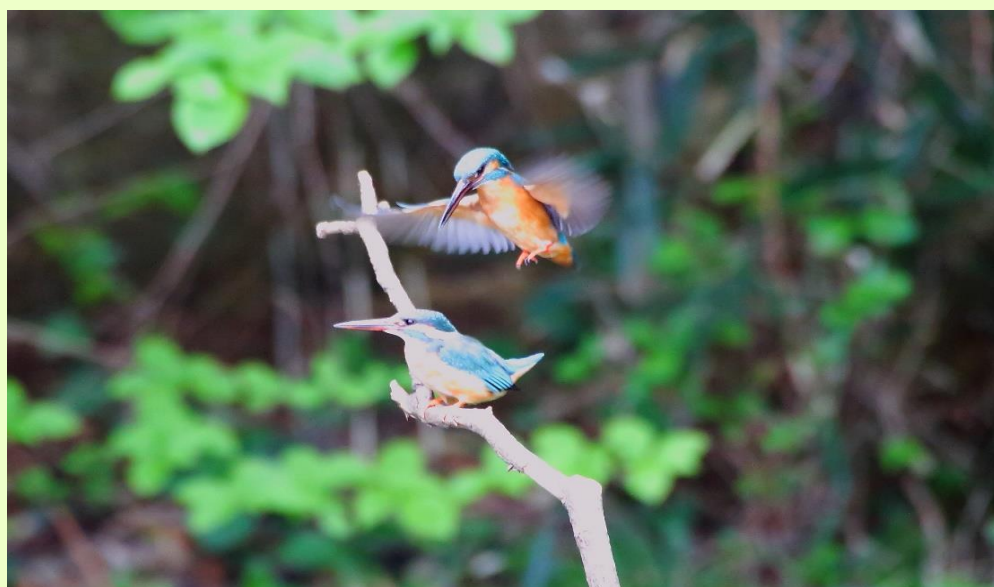


魚をくわえている状態





この写真は「餌渡し」（カワセミはペアリング前に牡が雌に餌をプレゼントし雌が受けとりカップルが成立するそうです）



牡が雌の上に重なる瞬間



「合体＝交尾」の瞬間